

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
専攻実技 1											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	古峰拓真/川島基宏 杉山航平/須藤直也			実務 経験	有	職種	作編曲家				
担当教員紹介											
アーティストやゲーム音楽、映像作品への楽曲提供に加え、楽器演奏やDJとしてステージに上がるなど各々が様々なジャンルにおいて活躍している。											
授業概要											
調性を有するオリジナルメロディーを作ることを目的とする。 学習の過程でコードおよびハーモニー理論が必要になるので、そちらにも十分な時間を割り当てる。											
到達目標											
まずは「理にかなった無難なメロディー」の習作をトピックごとに重ね、最終的にはオリジナル作品を数曲完成させる。 習ったテクニックがその作品に無意識に反映されている状態を理想とする。											
授業方法											
講義→実習→作品提出の繰り返し。最小限を心がけるものの、講義の量はそれなりになるので、学生は時間外の作業時間が必要になる。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
すべてのクラスとの連動が重要だが、特に月曜日音楽基礎理論および木曜日制作演習との連携を重視し、効率良くテクニックの習得を図る。授業計画にはマックスのパターンを記載したが、実際には様子を見ながら、必要なトピックには時間をかけるものとする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	グレード9/ pentatonic melody の制作										
第2回	pentatonic melody 仕上げ										
第3回	I major のみで、短いmelody を制作										
第4回	制作した melody と照らし合わせ、耳で体感する										
第5回	I IV V のみを用いた root motion に melody を乗せる										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
専攻実技 1	
第6回	第5回の課題をもとに、T/D/SDの関係を耳で体感する
第7回	chord function を意識しながら、major key diatonic chord のみを用いて作曲
第8回	同一機能内での reharmonization など、第7回作品をブラッシュアップ
第9回	cadence を意識した melody/ chord progression を制作
第10回	第9回作品のブラッシュアップ
第11回	グレード1・2/ anticipation と delayed attack の理解、作品制作
第12回	第11回作品のブラッシュアップ
第13回	指定された条件で作品を制作、個別対応①
第14回	指定された条件で作品を制作、個別対応②
第15回	指定された条件で作品を制作、個別対応③